

2 助成対象のまちづくり活動を行ったふりかえり

申請書に記載の活動の「目的、目標、計画」に基づきふりかえりをご記入ください。

(1) 目標達成（目標を達成できたか、達成できなかったものがあればその理由）

対話の場づくりについては、既存のつながりを起点に、子育て世代を中心に悩みや思いを安心して共有できる関係性を育むことができた。まち歩きを入り口にしたことで参加のハードルは一定程度下げることができたと考える。一方で、チラシ等を見て初めて参加する層の参加は限定的であった。本事業は、対話を通してゆるやかに関係性を育てていく取組であり、すぐに多くの参加者が集まる形ではないが、回を重ねる中で徐々に広がっていく性質がある。まち歩きやイベントを重ねるごとに参加者同士のつながりは少しずつ広がり、地域内の関係性も深まっていた。

最終的に開催した「みんなまちフェス」では、当初想定していなかった老人クラブとの連携や、メンバーからの自主的な企画も生まれ、地域が主体となって動き出す兆しを感じることができた。これらの積み重ねは、地域主体の活動モデルの基盤づくりにつながったと考える。今後も継続的な開催を通じて、さらに関係性を広げていきたい。

(2) 活動の成果（参加者や地域住民の評価、活動を通して得られた成果など）

「Feel度Walk」を取り入れたことで、自己紹介や肩書きに頼らず、各自がまち歩きで発見したことを記録した「知図」を名刺代わりに交流することができた。共通の体験を通して自然に対話が生まれ、参加者同士がつながるきっかけとなったことは大きな成果である。また、地域の魅力や課題を共有する機会にもなった。また、本プロジェクトの実施にあたり、学区の自治会に相談を重ねながら進めたことで、町内会長をはじめとする地域の方々が関心を持ち、実際に参加してくださった。新しい取組でありながらも理解と協力を得られたことは、地域内での信頼関係の構築につながった。そのつながりから、子ども会・学童・老人クラブ等との連携が生まれ、最終イベントでは老人クラブの協力によるボッチャ体験会も実現した。地域内の横のつながりが具体的に広がったことが、本事業の大きな成果である。

(3) 活動における工夫（活動の目標達成のために工夫した点など）

小さな成功体験を積み重ねながら、地域が主体となる活動モデルを目指し、まち歩き参加者を中心に「みんなまちパートナー」を募った。単に活動を支えるサポーターではなく、一人ひとりが対等な立場で関わり、共に考え、共につくっていく存在として「パートナー」と位置づけた。活動を役割として固定するのではなく「できる人が、できる時に、できる形で関わる」ことを大切に、ゆるやかにつながる仕組みを整えた。その結果、それぞれの得意分野や関心を活かした提案や協力が自然に生まれ、当初想定していなかった企画や団体間の連携へと発展。地域の中に、新たな関わり方の芽が育ちつつある。

(4) 活動の改善点（課題や反省点と、それを踏まえ今後の改善などを具体的に）

自治会との対話を通して地域課題を共有できた一方で、商店や地域の拠点への個別の挨拶や周知まで十分に行うことができなかった。まち歩きを実施したからこそ、地域のお店や活動拠点とつながる機会があったが、十分な連携に至らなかった点は今後の課題である。また、家庭・地域・学校をつなぐ役割を意識して活動を進めたが、学校と地域の活動を円滑につなぐことの難しさも実感した。立場や仕組みの違いにより、十分な連携を図るまでには至らなかったことは今後の課題である。次年度は、自治会や地域団体、商店等との連携を丁寧に進めるとともに、学校との情報共有や協働の在り方についても対話を重ね、よりゆるやかに接続できる仕組みを模索していきたい。

(5) 次年度の活動計画（具体的な活動の見通しなど）

今年度実施したFeel度Walk（まち歩き）を来年度も継続する。同じ場所を繰り返し歩くことで、新たな発見や気づきを重ね、そこから地域内での小さな実践が生まれることを目指す。また、活動を通して生まれたつながりを活かし、地域住民の「好きなこと・得意なこと」がまちの中で活かされる場づくりに取り組みたい。

自治会、老人クラブ等の地域団体と協働・共創しながら、多世代が自然に関われる仕組みを育てていく。さらに、公式LINEを活用し、自治会主催行事等への単発参加や短時間のボランティア協力など、無理のない関わり方を選べる仕組みを整えることで、地域活動への参加の入り口を広げていきたい。

(6) 活動を進めるうえで、助成事業について改善を望むこと

本助成は活動の大きな後押しとなり、助成団体同士の交流機会も有意義であった。一方で、単発の交流にとどまらず、継続的に情報共有や相談ができる仕組みがあると、より発展的な取組につながると感じた。例えば、助成団体同士が気軽に情報交換できる「オープンチャット」やオンラインでの交流機会があると、相互の学びや連携が深まると考える。

※第5号様式は、2ページにおさまるように記入してください。

※活動における実施した内容（写真やレポート、調査結果等）、経費にて作成した成果品（チラシ、冊子など配布物）を別添資料としてください。

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施記録

実施記録は1ページにおさまるように記入してください。

年	日付	活動項目	活動内容	参加者数や 印刷物の 発行部数等
2025	7月6日	活動打合せ会	今年度の活動についての打合せ会	スタッフ3名
	8月17日	ワークショップ	キックオフイベント Feel度Walk×おしゃべり対話カフェ in 大乃伎神社	スタッフ3名 参加者14名
	8月23日	活動打合せ会	まち歩きイベントに向けて	スタッフ3名
		活動チラシ作成	チラシ作成	2000部
	9月19日	活動打合せ会	まち歩きイベント準備	スタッフ3名
	9月23日	ワークショップ	大野木学区まち歩き知図を描こう！	参加者31名
	10月18日	ワークショップ	大野木学区まち歩き知図を描こう！	参加者31名
	11月2日	ワークショップ	大野木学区まち歩き知図を描こう！	参加者30名
	11月7日～ 8日	イベント出展	なごや知図展	
	12月10日	活動打合せ	オンラインミーティング	8名
	12月20日	活動打合せ	イベント準備	17名
	年末年始	ワークショップ	コーンホール作り	20名
2026	1月10日	活動打合せ	イベント準備	30名
		活動チラシ作成	大野木御城印 当日MAP作成	200部 100部
	1月18日	イベント	大野木みんなまちフェス	92名
	2月	活動レポート （瓦版）作成	みんなまち瓦版作成	300部

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の決算書

1 支出

助成対象のまちづくり活動における支出をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	領収書番号	金 額 (円)
1 助成対象事業支出額				54,124
① の 内 訳	消耗品費	イベント全般（クリップボード）	①8/3	1,100
		イベント全般（クレヨン）	②9/18	1,100
		8/17イベント（茶菓子、飲み物）	③8/15	2,169
		1/18イベント（飲み物）	④1/15	1,940
		1/18イベント（茶菓子）	⑤1/15	2,965
	印刷製本費	イベントチラシ 2,000枚	⑥10/17	6,960
		1/18イベント（ポストカード）200枚	⑦1/14	2,660
		（当日案内チラシ）100枚	⑧1/15	3,580
		みんなまち瓦版 300枚	⑨2/25	10,250
	使用料及び賃料	施設利用料 ・大乃伎神社社務所	⑩8/17	1,400
		施設利用料 ・大野木コミュニティセンター	⑪9/11	4,800
		施設利用料 ・大野木コミュニティセンター	⑫10/30	1,600
		施設利用料 ・大野木コミュニティセンター	⑬1/8	7,600
	保険料	10/18、11/2分傷害保険	⑭10/8	3,000
		1/18分傷害保険	⑮1/15	3,000
まちづくり活動助成金（申請金額） ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目では10万円				50,000

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。